

特42
842

真田三代記

前下





上巻より

うんのをどろ
 まてまんと結ん
 るふ足覚十巻
 むどつる此怪
 かとを教味
 於と由凡人
 る鬼作の

二巻より

振舞多と
 村の方より
 十巻より
 次へ

佐栗三河守



つぎ
おのれ
磯つと
りさ

▲おのれを
おとす
おのれを
おとす
おのれを
おとす
おのれを
おとす

穴山小右衛門



望月玄蕃

十
虎
何ぞや
橋の
一
足
推
組
組

▲おのれを
おとす
おのれを
おとす
おのれを
おとす
おのれを
おとす



樂岩寺右馬之助

井田織部丞



真田の軍勢

佐栗三河守

方より河内を渡り
 余津の村より方の先
 臨陣を告げしとき
 突入る
 中へ初め一々
 月より河内を渡り
 りとも大軍あり
 き多くは先陣あり
 勢よく進みしとき
 一は敵の軍勢
 後には河内を渡り
 橋より河内を渡り
 月より河内を渡り
 橋より河内を渡り



つぎ止まり

如くは月光の

光を以て

あつた

あつた

あつた

あつた

相木森之助

真田昌幸

○あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

布下弥四郎

寛十兵衛

あつた

あつた

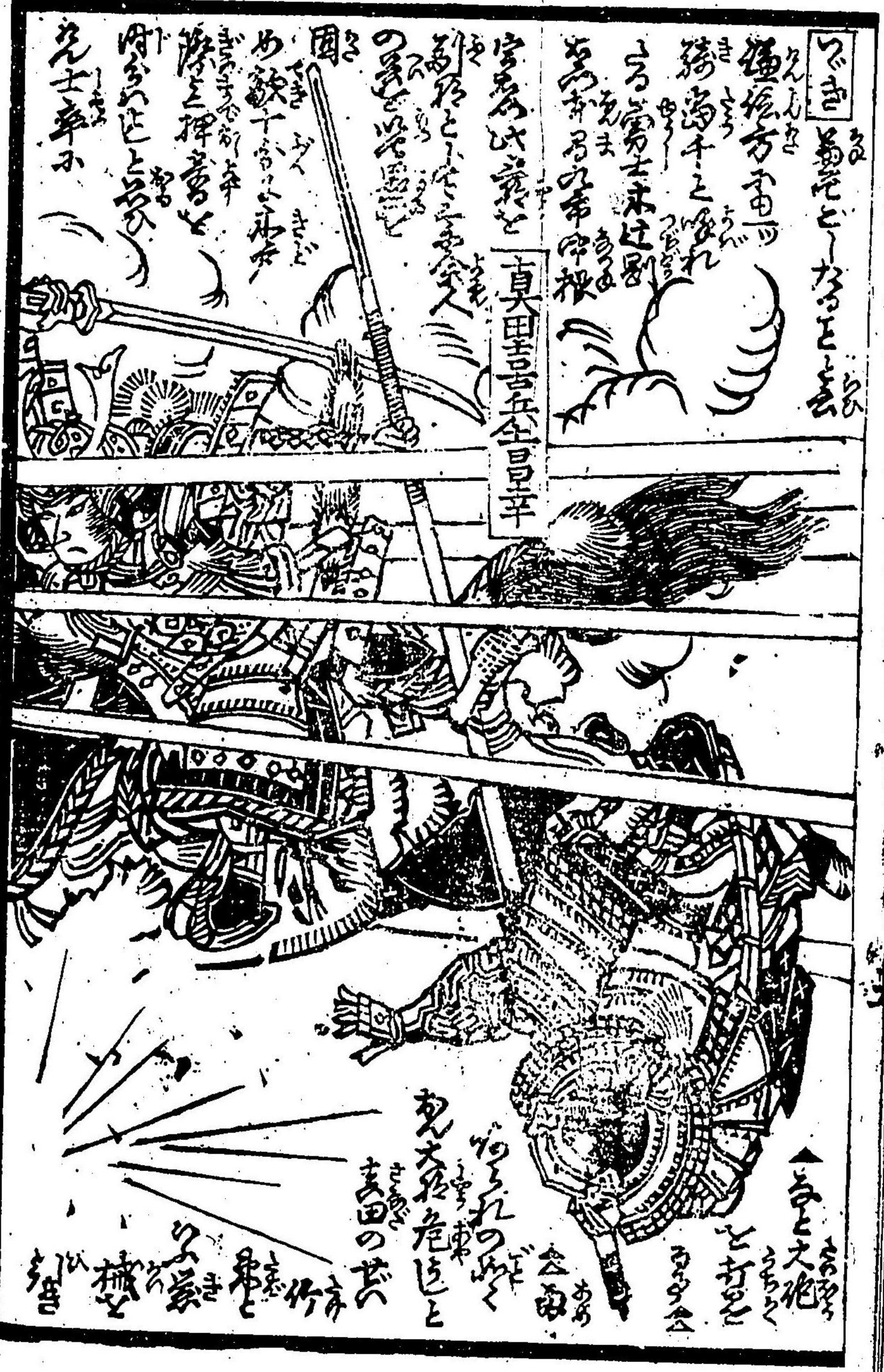
あつた

あつた

ついでに...

備後方...

先士卒...



真田...

大砲...

大砲...

美田...

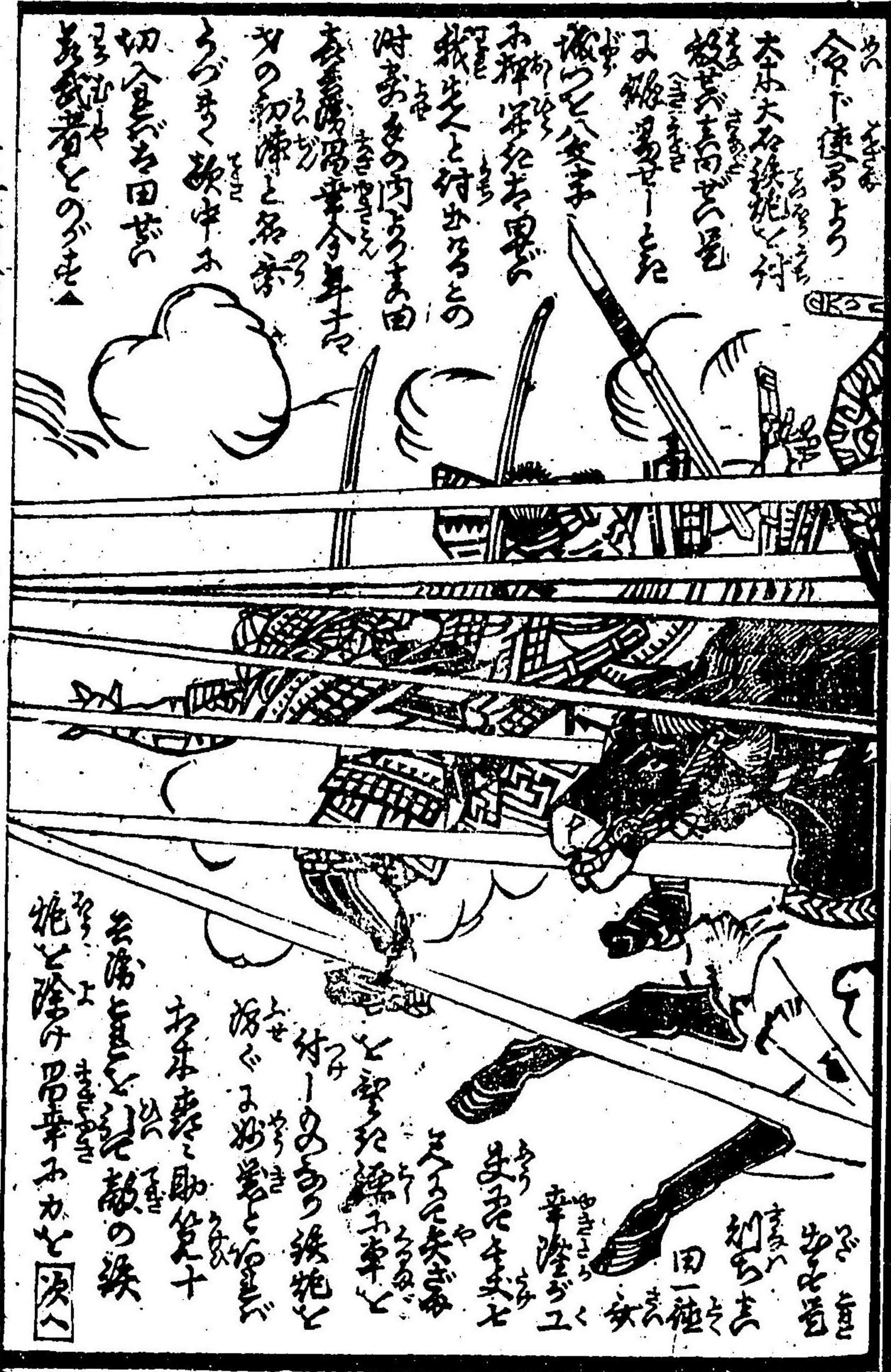
大砲...

命令...

本太...

又...

切...



出...

初...

田...

幸...

出...

足...

上...

付...

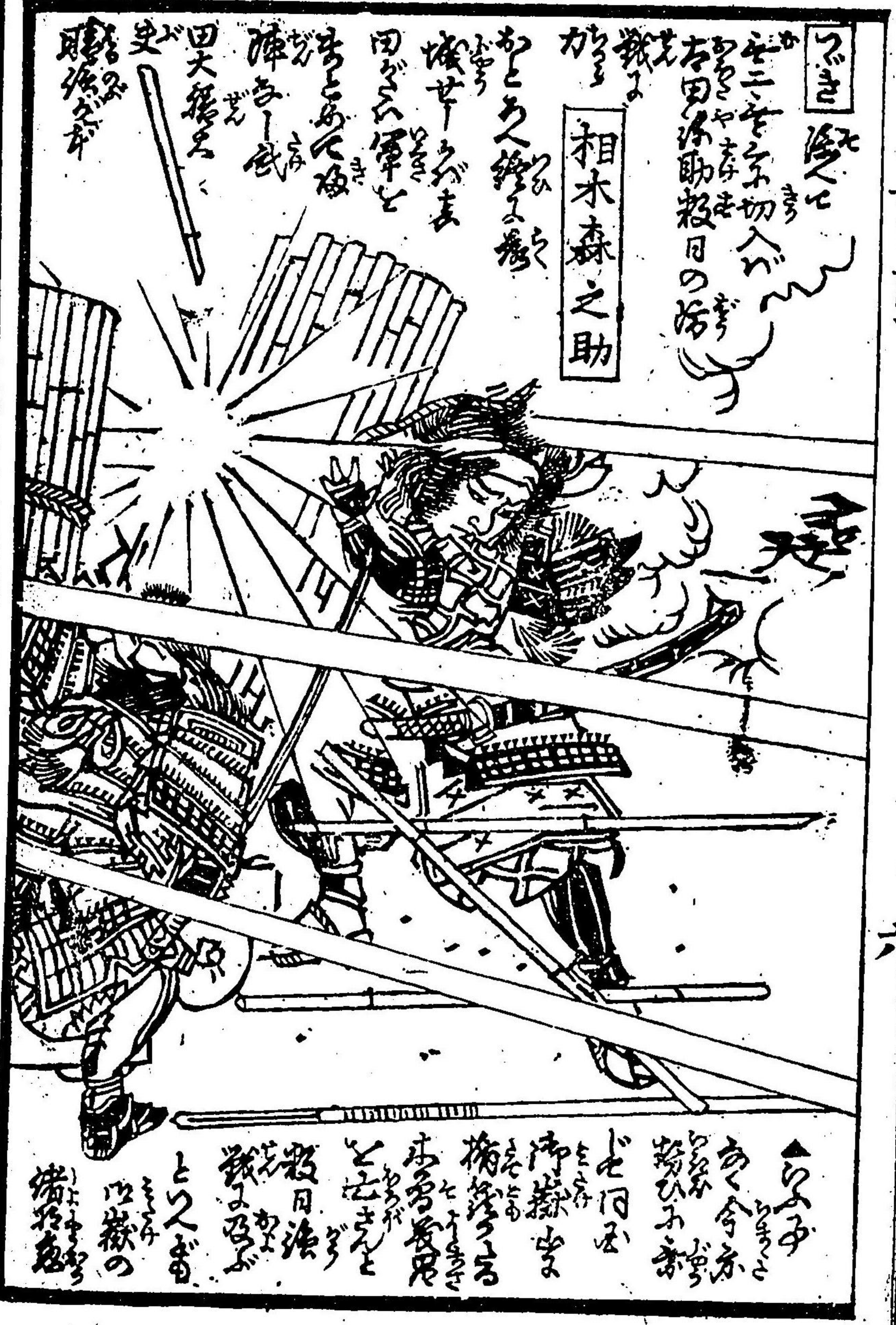
お...

お...

他...

つぎ 浪人
 〆二を宗切人
 〆田沼助救日の活

相木森之助



あといふ終る巻
 城せうの巻
 田沼の軍と
 〆とあてぬ
 陣まり成
 田沼名
 〆の巻

〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻

〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻



〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻
 〆の巻

木曾義昌

三世

財をば仲する

財をば仲する

財をば仲する

財をば仲する

財をば仲する

財をば仲する

今井駿河守兼祐



相木玄之助

一遊して後考を及

色一七對面方

これが元山はつて

成田家とあるが

徳者
とて
入来
色バ
後思
元山
以事と

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

穴山小助



と和隆と何い

本屋安堵と

紅花と

深谷ふ及び

一六後思

と初名年

後思と

水と

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

あまよ

つき 佐雲が

木曾義昌

はるかにあつたおとどろきの

とてはむひのまはる

佐雲よとの長き

早急の

とつひの

おのれは安堵とさうあつた

あつたおのれは安堵とさうあつた

とあつたおのれは安堵とさうあつた

おのれは安堵とさうあつた

あつたおのれは安堵とさうあつた

あつたおのれは安堵とさうあつた



御 明治
十三年
十月
一日

本所 藤野 早目 五十二 地
編輯 兼
出版人 荒川 吉五郎

万里姫

石川五右衛門一代記

全二冊

明治十三年七月十六日出版

鬼神の於

全二冊

水戸黄門記

全二冊

地本 錦繪 おるし

本所 藤野 早目 五十二 地

荒川 吉五郎 版

價三表五厘

